

良質な農畜産物を育む、緑溢れる都市環境のために

1.札幌市の自然

札幌市は石狩平野の南西部にあって、東西42.3km、南北45.4km、市域面積1,121.26km²を有しています。

地形的には南西部に位置する緑豊かな山岳部が市域の大半を占め、主な都市活動は、市内を貫流する豊平川によって形成された扇状地およびこれに連なる石狩低地帯、並びに南東の月寒台地、野幌丘陵を中心として展開されています。

気候的には日本海型気候に属し、大陸の気候に左右されることが多く、夏は一般にさわやかで、冬は積雪寒冷を特徴としています。

また、農耕期（4～9月）の平均気温は16℃前後であり、農耕に適しています。

2.札幌市の農業の経緯

札幌市は、明治の開拓初期から屯田兵が入り、水田や畑の開墾が盛んに行われるとともに、1876年（明治9年）には北海道大学の前身である札幌農学校が設置されるなど、北方農業の技術供給の拠点として、常に北海道の農業において重要な役割を担ってきました。

大都市の有利性を生かし、野菜や花きなどの集約的な栽培、中小家畜などの飼育を中心とする農業への転換を図り、市民に対する新鮮かつ良質な農畜産物の供給という重要な役割を果たしています。

3.札幌市の主な農業

(1) 野菜

野菜生産は、札幌市の農業の基幹となるもので、多様な作物が栽培され、市場や農協などを通じて市内のほか道外にも出荷されています。特に生産量が多い作物は、次のとおりです。

①タマネギ～作付面積は約293ha 「札幌黄」「さつおう」「F1品種」

日本での食用としては、1871年（明治4年）に札幌で試験栽培されたのが最初とされ、後に札幌農学校において本格的な生産が開始されました。

《主な生産地》東区の丘珠地区から北区篠路地区にかけての伏古川流域と白石区東米里地区の旧豊平川流域

②レタス～作付面積は約65ha 「玉レタス」「リーフレタス」「サニーレタス」

《主な生産地》北区太平・篠路・茨戸地区、東区、厚別区 他

③コマツナ～作付面積は約38haで道内でも有数の産地となっています。

1987年（昭和62年）から東区丘珠・東雁来地区で生産が始まり、現在は南区藤野・篠舞地区や西区他でも生産されています。

④ほうれん草～作付面積は約33ha「ポーラスター」

《主な生産地》清田区真栄・有明地区、南区滝野・常盤地区

⑤「大浜みやこかぼちゃ」～作付面積は約10ha

「サップロスイカ（山口スイカ）」～作付面積は約1.8ha

《主な生産地》手稲区手稲山口地区

(2) 果樹

栽培面積は約54ha 「イチゴ」「サクランボ」「リンゴ」「モモ」「ウメ」「ブドウ」「プラム」「ブルーベリー」など多品目

《主な生産地》南区藤野地区から小金湯地区までの豊平川沿い。南区や東区では、ブルーベリーなどの小果樹の栽培を行う農家も増えてきています。

(3) 花き

①切花～切花生産面積は約10ha 夏季冷涼な気候を利用した都道府県への移出が盛ん。「キイチゴ」「ワレモコウ」「スイートピー」「バラ」「キク」「ガーベラ」「アジサイ類」など

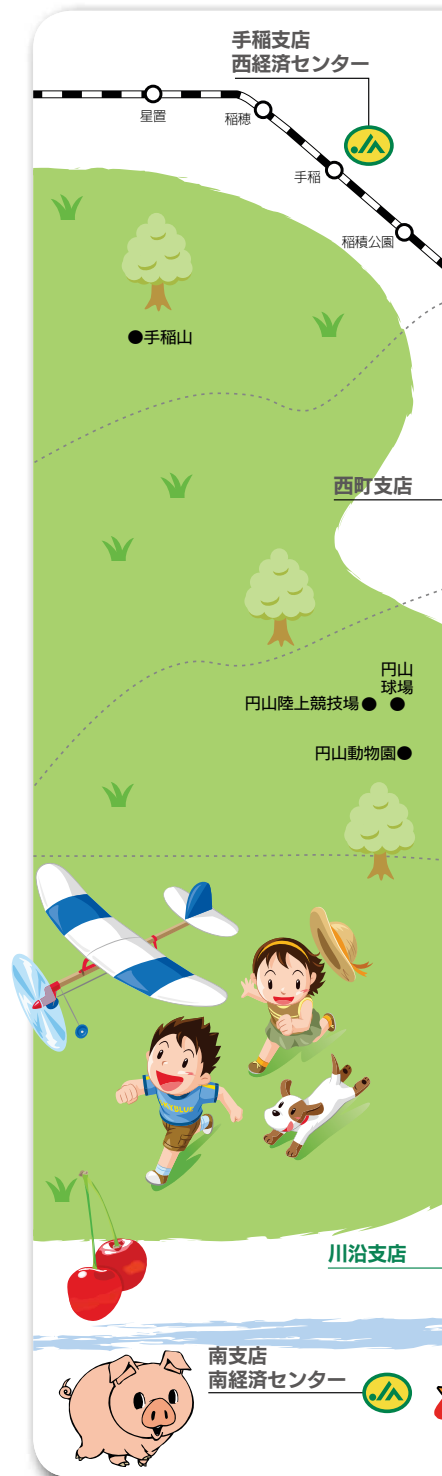
②鉢花～「シクラメン」「ポインセチア」「ペゴニア」「胡蝶蘭」「花壇苗」など

《主な生産地》清田区、厚別区、西区、手稲区、南区 他

(4) 水稲

作付品種は良質・良食味米「ななつぼし」を主力品種として「おぼろづき」「ゆめぴりか」などが栽培されています。

《主な生産地》北区篠路地区、南区藤野・篠舞・小金湯地区を中心に生産されています。



(5) 畑作物

小麦などの畑作物は、輪作体系の確立、有機物の土壌還元、病害虫対策などが課題となっています。

《主な生産地》北区、手稲区 他

(6) 畜産

畜産業は、都市化に伴う周辺住宅地との環境問題、生産者の高齢化・後継者不足、畜産物の輸入増加による価格低迷などにより、ここ20年ほどの間で飼養戸数・頭数とも大幅に減少しています。

①酪農（約1,000頭）

牧草を中心とした飼料作物の作付面積は、市内全農家の耕

地面積全体の半分近くを占めています。

《主な生産地》北区篠路・屯田地区、東区中沼・東雁来地区、手稲区手稲前田地区

②養豚（1戸 出荷頭数 約1,500頭）

特徴ある良質な豚肉の生産をしています。

③養鶏（1,000羽以上飼養している農家 2戸）

特徴ある良質な鶏卵生産をしています。



※参考資料：平成 28 年版さっぽろの農業（札幌市経済観光局農政部）

